

Recording the names of millets in Taiwan, with special reference to the endemic *Spodiopogon formosanus*

Emiko TAKEI, Osaka Gakuin University

台湾の雑穀類の呼称の記録 -固有種台湾アブラススキとの関連から-

竹井恵美子 (大阪学院大学)

台湾ではアワ、キビ、モロコシ、シコクビエ、ハトムギ、台湾アブラススキといった多種類の雑穀類が栽培されてきた。中でもアワは、台湾原住民族の主穀として重要な作物であったことが知られており、イネと同時期に大陸から伝来した可能性が指摘されている。アワやキビ、ハトムギはアジア大陸、モロコシやシコクビエはアフリカ起源で、台湾の外部から伝来した雑穀である。

一方、台湾アブラススキは、台湾以外で栽培されたことがない台湾固有の雑穀である。この植物は 19 世紀末にイギリス人の植物学者によって採集され、新種記載された後、日本統治期にも多くの場所で標本が採集されており、かつては台湾の山地部で広く栽培されていたことがあきらかである。しかし、これまでの人類学的、言語学的な調査からはその記録が欠落していた。

私はこの作物の存在に気づいて以来、実物標本を用いて現地名を収集してきたが、その調査過程から、かつて誤った日本語名が原住民族に伝えられ、その認識をもとに現地語が収集され、統計や報告が出版され、繰り返し引用されてきたことが明らかとなった。シコクビエの呼称についても同様の方法で調べたところ、他の作物と混同して記載されている例がみつかった。本報告では、雑穀の実物標本に基づいて収集した現地名と、それ以前に何らかの方法で収集された現地名のずれを、実例をもとに紹介する。

雑穀の名称は、調査者の使用言語と一対一で対応するとは限らないため、誤認や誤用が生じやすい。調査者や著者が雑穀をよく知らないということも誤りの原因の一つである。日本統治時代以前の中国語の台湾地誌やヨーロッパ言語による記録の中の雑穀名を解釈する上でも同様の留意が必要である。